

3年生は授業打ち切りとなり、進路が決まった人は学校で講習を受けたりなど、次の段階に向けての準備をする人たちもいますが、何よりも、これからの入試に向けて必死になって学習する人たちも数多くいます。心より健闘を祈りたいと思います。さて、1, 2年生の皆さんも3者面談を経て、少なくとも1年生は進路の方向性を、そして2年生は具体的な目標を決めたことと思います。大切なのは、自分が「何になりたいか」「何をして働きたいか」であり、自分の夢・目標を持つことが、さらに自分の今を充実させますし、学校が楽しくなるのです。よく「夢を持つと辛いことも頑張れる」と言われます。では「あなたの夢は何ですか」と皆さんに尋ねると、「まだ、ない」とか「わからない」という答えが返ってくることも多いです。しかし、『校報』にも書いたように、人に褒められたり、何かに感動したり、授業の中で学んだり、海外研修に行ったり、様々な経験する中で、ふっと出てくる場合もあるのです。ですから、いざ夢・目標が決まった時に、それに向かって突き進むだけの力を付けておくことが大切であることは頭に置いておいて下さい。

ところで、3年生への最後の講話で2年連続で質問に答えるという形式を採ったのですが、どちらの学年も多かった質問は、「なぜ教師になろうと思ったか」と「校長の仕事」についてでした。ですから、皆さんに夢・目標を持つことの大切さを述べている身として、その点について語っておこうと思います。

皆さんには、小学生、中学生の先生との出会いを今まで語ったことがあります。そこにきっかけがあったわけです。まず小学校の時の先生は、作文を何枚も書かせました。特に200枚に及ぶ「日本旅行記」と350枚以上の「世界旅行記」を小学6年生の時に書いたのです。その時は夢中で書いていて意識しませんでした。製本してみると「世界旅行記」は、厚さ6センチの本が2冊になり、後になって、よくこんなに書けたものだ自分でも感心しました。また、その先生は女性で年齢は40歳くらいだったと思いますが、必ず昼休みに一緒にドッチボールをやったり、また、今ではあり得ませんが、4, 5人ずつ先生のお宅に合宿したこともありました。そして、次に中学校です。中学3年生の担任は、口数は少なく、野球部の顧問もされていて、非常に厳しい、近寄りがたいいわゆる恐い先生でした。しかし、とても面倒見がよく、朝一番に出勤しては、勉強が苦手な生徒用の問題プリントを印刷、その後野球部の朝練指導をされていました。当時の思い出として、脱走した同級生もいて、数回に及んだため、「青木、2人を連れ戻してこい」、自転車で3人でめぼしいところを探しに行ったこともありました。（そうするといつの間にか10名くらい後をついてきたこともありました。）

そういうことで小学校・中学校共にホームルームの絆も強く、どちらも先生が90歳を過ぎてコロナ禍になるまで、同窓会をやっていました。それでこの前、終業式で話したようなラインも友人から送られてくるのです。高校の同級生も、例えば駅前の岡田クリニックの院長の岡田君や野球部甲子園出場の際に県の代表として副知事が応援に来てくれましたが、それも同級生の北村君、野球部の人たちと知事に挨拶に行った時に、彼から同級生ということをお話してしまいましたが、未だにやはり彼らとも年1回くらいの割合で会っています。以前も話しましたが、それぞれに大学時代の友人も含めライングループができていて、特にラグビー部の花園準優勝の時や野球部甲子園出場の際は、大盛り上がりで嬉しいことに返信で大忙しでした。皆さんのお陰で仲間とつながることがで

き、仲間にも幸せを分け与えることができました。本当に皆さんには感謝します。

また、質問の1つの「先生(教師)として1番嬉しいことは何か」に対する答えとなるのでしょう。そして、何よりも皆さんの成長、学校の良い雰囲気になっていること。皆が喜んでくれることが1番嬉しいです。進路達成、部活動での活躍そういったものは、もちろんありますが、朝礼の話で何か感じてくれたこと、誰かが自然にゴミを拾っていた姿を見た、大きな声で挨拶してくれる、もちろん大きな声でなくても、会釈をしてくれるだけで嬉しいのです。さらには、こつこつと真面目に学習している姿、要するに一生懸命に何かに取り組んでいる姿を見た時、また何より嬉しいのは成長してくれたこと、授業中集中して取り組んでいる様子を見ること、全てが1番嬉しいことです。

そして、「なぜ、校長先生になろうと思ったのですか」の質問、なろうと思ってなれるわけではなく、前校長に指名され、理事会で承認されるのです。ただし、了承したのは、教育の理想があった。「可能性に挑戦」ということを担任の時から言っていました、「人は誰でも自分でも知らないような力があるんだ」、それを生徒から教えられましたし、自分も可能性を引き出された一人、だからこそ、そうした喜びを知ってほしい、幸せになってほしいという思いがありました。誰もが幸せであり、挨拶ができる、思いやりがある、くじけない、そのような学校にしたいと思いました。それは校長になってできることだと思います

「校長の主な仕事と一番大変だったことは何か」という質問もありました。朝礼、書類の確認とか、先生たちの把握、授業の点検、対外的なことへの対応などがありますが、一番は「決めること」「責任を持つこと」です。「決める」のは全ての点であり、例えば、最終的に先生方の配置(採用から担任・係など)、行事、学習内容ですが、コロナ禍、行事をどうするか、休校をどうするか、台風の時もそうでしたが、特に危機管理において「決めて」「それに責任を持つ」ことは重いです。

また、「見ること」です。質問に「授業を観て回っている時、何を考えているのですか」とありましたが、何も考えずに「見る」ことに徹しています。皆さんの授業への姿勢や教室の状況はもちろんのこと、例えば掲示物も学年通信、部活動の活躍が載っている新聞、先生方の思いを感じます。

最後に、これも質問にあった座右の銘というか影響を受けた言葉を紹介します。これは校長になって心掛けたことです。今まで皆さんに話してきた中にも引用した言葉です。まず、「とにかく人間として正しいことを正しいままに貫いていこう。嘘をついてはいけない、正直であれ、欲張ってはいけない、自分のことばかり考えてはいけない」。京セラという大会社を一代で築いた稲盛和夫氏の言葉です。稲盛氏はずぶれそうな会社でひたすら研究し、ファインセラミックというものを開発します。それが認められ援助するから会社を作らないかという時に、経営は素人の自分に言い聞かせた言葉です。稲盛氏は後に au も作り、80歳で JAL の再建を任せられ、無報酬、ホテル住まい、コンビニ弁当で現場の陣頭指揮を執り、見事再生させました。また、パナソニックの5代目の社長である山下俊彦氏は、「人生は感動することである。その場面をいくつ作れるか」という言葉も心に残っていて、これは皆さんに訴えてきた言葉です。皆さんもこれからどのような人生を歩んでいくのでしょうか。1度しかない人生です。悔いのないよう進んで下さい。